

擬心明鬼×遅・障・園

2013/2/4

インフルエンザ

最善の流感予防法(改)

今年も「インフルエンザ(流行性感冒。以下、流感)」に関する「警報」とか「注意報」とやらが聞かれる時期を迎えている。夏は一部地域を除いて殆ど蒸し暑い一方で冬は空気が乾くと云う対照的な気候に晒される此の国・日本に在って、流感は地震・津波そして台風と同様、避けては通れぬ「自然の狂気」の一現象らしい▼さて、「遅・障・園」の主人公「春男」は生来、流感対策の為に予防接種(注射)を受けた事が無い。正確に申せば、小学六年生の時に義務付けられる「種痘」や「ジフテリア」の対策の接種と同時期に受けた事は在るが、其で微熱を出して中学生以降、予防接種とは無縁と成り今日に至っている。同じく流感対策の接種を生来、受けて来なかったと云う母が「菌を植え付けて病を防ぐ」と云うより微細菌に感染した際、発症の症状を軽くする」と云う事に抵抗を感じ、受けさせなかったと云うのだ。尤も、乳幼児期の春男は体が弱く、小学二年頃迄診療所へ通っては尻か腕に注射を打たれ、其が「アレルギー」同然に成った―三年生からは吸入に拠る薬品投与に替えて貰った―事が、母の場合は「アスピリン」や「ペニシリン」等に過敏な体質―春男にも引き継がれているが―を抱えていた事が、各々「災い」しているのかも知れぬが…。そんな春男が「我が家の流感対策」と称して得意気に幾つか語っていた▼①煎茶のプラ瓶を持ち歩き、洗

面所や流しを見付けては必要に応じて随時、煎茶を口に含んで嗽を行う②咳や嚏が出る様な時は外出時に覆鼻腔を付ける③アルコール消毒液を常に持ち歩き、貨幣に触ってから飲食物に触る迄の間に必ず同液で手を洗う(貨幣は最大の病原体感染経路。DNA鑑定を通さぬ限り、誰が触ったかを特定し得ない)④自宅では部屋の広さに応じて一乃至三枚のタオルを濡らして干す(流感の微細菌は空気が乾くと活発に成る、と云うので)⑤日常に在って薬品や栄養補助食品(補養食)とやらを飲まない(普段から人工の物を口にしてると、いざ病を得た時に必要な薬品が効かなく成り易い、と云うので)▼①②については殆どの人々が実行しているだろうが、③④⑤を実行している人々は少数派では無かるうか。特に⑤については、放送―特に無料視聴が前提の民間放送―では先ず「口が裂けても言っては成らぬ」事―無論、補養食の会社群が「通信販売広告」を通し最大級の「御得意様」と成ってるが故―だけに実行している人は更に「極少ない」のでは▼春男は③④⑤を実行している所為も在ってか、と前置いた上で、「流感対策に予防接種を、と放送が唱えるのも自社の一営業策じゃ無いの?。そう感じつつも嫌々射ってる人・更には盲点を巧く突いて注射を避けてる人、結構、放送界にも居ると思うよ」とも話していた▼春男は今年度も此処迄、外出すら出来ないだけの容体に至った事は一度も無い。「咳や嚏と併せ、頭の皮膚と筋肉の間の神経に部分的な痛みが時々走る」事は在る、と云うが。